

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス事業所 ぱんきっず			
○保護者評価実施期間	2025年 1月 14日 ～ 2025年 1月 21日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数)	12
○従業者評価実施期間	2025年 1月 6日 ～ 2025年 1月 14日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 2月 17日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	こどもの活動に合わせた生活空間と、清潔で心地よく過ごせる環境を提供し、安心感を持って通所できている。	個々の特性に応じた部屋分けやグループ分けを行っている。 こどもの退所後は、毎日施設全体の清掃と教材、玩具等の消毒作業を徹底しており、常に清潔を心がけている。	これまでと同様に、全体が寛いだり安らげる空間を残しつつ、広い空間を仕切り、個別でも落ち着けるスペースの確保をしていく。
2	経験年数や勤務年数が長い職員が多く、こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられる。	個別支援計画をベースに、個々の障害特性について話し合い、それぞれに適した内容で経験豊富な職員が日々の支援にあたっている。	今年度より、専門職による集中的な支援を行う「専門的支援」の実施を開始している。
3	こどもの状況について保護者との連絡ができており、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができています。	その日の状態や様子などを連絡帳に記載してお知らせしている。また、お迎えや送迎時にも保護者に直接口頭で漏れのないようにお伝えしている。	家庭や学校での困りごとや相談、申し入れについては、いつでも対応ができるよう関係機関と連携し、体制を整えていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が 必要な点等
1	<p>家族支援プログラム(ペアレントトレーニング)や家族も参加できる研修会や情報提供の機会がない。</p> <p>父母の会や保護者会等の開催機会や保護者、きょうだい同士を含む交流を持てる場を提供していない。</p>	<p>こどもへの関わり方については、ご希望がある場合のみ助言を実施している。ペアレントトレーニングについては外部での研修機会があることや希望者がいないことから実施していないが、そのことが周知されていないように感じられる。</p> <p>以前は平日の昼間に事業所内で保護者同士の交流の機会を設けていたが、保護者の仕事の都合や生活リズムの違いから、参加者が少なく現在は開催していない。このような経緯についての周知が不十分である。</p>	<p>毎回同じような回答をいただいている。丁寧に説明をする機会を設けて、希望に応えられるようにする必要がある。また、情報提供も積極的に実施する。</p>
2	<p>こどもや家族からの相談や申し入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申し入れがあった際に迅速かつ適切に対応できているという点が保護者に伝わっていない。</p>	<p>年2回(更新時期・モニタリング時期)保護者面談を実施しているが、それ以外でも相談や申し入れがある場合は随時面談の場を設けて対応している。相談される方とされない方の差が激しく、初回の相談に対するハードルが高いように感じている。また、こども本人の意見やご家族の意見が十分に聞けていない。</p>	<p>保護者や利用児本人が安心感を持って相談や申し入れができるような雰囲気作りや、環境を整える必要がある。希望があれば自宅での面談等、臨機応変に実施するように取り組みたい。</p>
3	<p>事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫している点が保護者に伝わっていない。</p>	<p>こだわりがあるケースや見通しの力が弱いケース等、意識的に固定化しているケースもある。活動プログラムの種類や変更のタイミングはこどもの特性に応じて対応しているので、活動内容が偏っていると評価されることもある。</p>	<p>個々の特性に適した支援をすることでこどもの力を育むことを最優先としている。そのために、手順や細かい箇所を変えていても同じような活動をしていると見られることも多いと考えています。</p> <p>支援の内容をより丁寧に説明したり、保護者の質問に回答する機会を増やしていく。</p>